

本件控訴を棄却する。

る。

そのとに日附し以条といにと際（同の違ふ罪の犯。一和号違
止る論み三て干第七者な行の二町右と違ふ。二六条よ
防達所をらしす鋼項し人とな令月二市のつもの第二あき二後十論
のを官項かそ用禁一を國るな施五地のよ第二で二七の
入目検第二日し準は第請外めば勅二年居住にお附則きうべ昭和一三何
法のは則行規れし四の内定めは右三項の三附則きうべ昭和一三何
不こと附施とこ若第偽以臣な二項十の三附則きうべ昭和一三何
沿つる号勅ない懲には十務請第和め附則規同云うと昭和一三何
線であ○七のらつ下二号又六内申請昭定附則規同云うと昭和一三何
のし二はば以下二第さき定録記あ地同こ要犯す経五訴訟に
策も定第人れ場合以第さき定録記あ地同こ要犯す経五訴訟に
政する制令外国けの箇そをた地のば日居命する即行す経五訴訟に
理すを勅外な項六てし申入居事よ行内と処罰する進期和ら趣
管と定二年るし前はし申入居事よ行内と処罰する進期和ら趣
の規二すをは者とのにに施行内と処罰する進期和ら趣
国目る二留請定るる録邦内に規定令以こをて完日十したる同
合るす和在申請する登本所規勅十すつに成の右完のこれ
連た罰昭にの當処ては日し同勅十すつに成の右完のこれ
が主処（邦録条該にし人四対等しし請か定に経過のうに既に
令をを令本登五に料反外国十にれ計算申な規定に経過のうに既に
録締岩録にて十一科違外は長こに起算しな規と同間よのかあ
登記い登録に第十のにはきはのら人ら録をの項過右か訴起すべき
人的な人際準至号く項とはきのら人ら録をの項過右か訴起すべき
國察し外国のに乃各し一第項と村か外国か登の旨第二経はら訴起すべき
外警を外行定条の若第第一項と村か外国か登の旨第二経はら訴起すべき
に請し施行規二左留条条なのであるり要則期間効明公訴起すべき
ずす申然令の十は拘八四に地留にの申請の期効明公訴起すべき
按て録の四は二又は令居おに一項の「右訴録三十言は理由がない。
つて人登あ二第項十金又同外該て本則對從附對訴起算十免訴論
よ外めりでは三第罰項又が當し本則對從附對訴起算十免訴論
他た為同以則同下第定もよ規定に附長反べは罪本日二によはなく

よつて刑事訴訟法第三百九十六條に則り主文のとおり判決する。

(裁判長判事 柳田躬則 判事 藤井寛 判事 永見真人)